

令和 4 年 6 月 29 日現在

機関番号：72681

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00117

研究課題名(和文) 天道信仰の発展的研究—琉球から大陸への展開を中心に

研究課題名(英文) Evolutionary Study of the Tendo Faith:Focusing on the Expansion from Ryukyu to the Continent

研究代表者

加藤 みち子 (KATO, Michiko)

公益財団法人中村元東方研究所・その他部局等・主任研究員

研究者番号：10306524

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、古来我が国に広く行われ、現在でもよく知られている「天道信仰」について、日本のみならず東アジア思想との影響関係を跡付けることを目指す試みである。日本における「天道」といえば、現在は「おてんとうさま」を太陽と考えることが多いが、調査によれば単なる太陽ということではなく、神道・仏教・陰陽道・道教などの複合的な宗教概念であることが浮かび上がってきた。とりわけ道教や陰陽道などとの関連を調査していくうちに、琉球の「天道」祭祀や大陸の「天道」観念の影響が顕著であることが明らかとなった。特に天道信仰のルーツを沖縄(琉球)から大陸へと遡及して跡付けた点が大きな収穫である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

天道という宗教観念は、わが国で「お天道さま」として通常概念として流布しているが、その思想的実体については、必ずしも明確であるとはいえない。本研究は、その思想的実体を明らかにするため、民俗学的フィールドワーク、思想史的文献資料の解釈、哲学的概念分析等の方法を横断的に駆使することで、従来は不明確であったその「宗教複合」としての思想の内実を明らかにし、さらに、大陸との関係を浮かび上がらせることによって、SDG'sへの世界的取り組みから、多文化共生研究が活性化している現在、我が国の宗教思想のグローバルな位置づけを再定位することに貢献できる。

研究成果の概要(英文)：This research is an attempt to trace the influence of "Tento faith", which has been widely practiced in Japan since ancient times and is still well known, not only in Japan but also in East Asian thought. When we talk about "Tendo" in Japan, we often think of "Otento-sama" as the sun, but according to a survey, it is not just the sun, but a complex religious concept such as Shinto, Buddhism, Onmyodo, and Taoism. It has emerged that it is. In particular, while investigating the relationship with Taoism and Onmyodo, it became clear that the influence on Ryukyu's Tendo ritual and the continent's "Tento" idea was remarkable. Especially, the fact that the roots of the Tendo faith were traced back from Okinawa (Ryukyu) to the continent is a big harvest.

研究分野：思想史

キーワード：天道 陰陽道 道教 韓国 琉球 吉田神道

1. 研究開始当初の背景

本研究は、2015年度～2017年度に実施した基盤研究(C)15K02095「東アジアにおける天道信仰の総合的研究 道教・陰陽道思想とのシンクレティズムを中心に」の研究成果に基づいて、発展的にもたらされた問題意識による調査研究である。

前研究では、東アジアおよび日本各地で「天道(天)」をめぐるフィールド調査および史資料の調査を行い、陰陽思想・道教を含む「宗教複合」思想を浮き彫りにすること、とりわけ「大陸とのつながり」を視野に入れて精査することにより、前回の研究では抜け落ちていた「天道」思想の現代につながる意義を見出すことを目指すものであった。調査によれば、陰陽思想・道教思想との関係が明確にはなったものの、当該思想が、琉球を経由して大陸にまで遡及するものであることが、おぼろげながら浮かび上がってきた。前近代社会における「琉球」は、よく知られているように独自の宗教文化圏であり、その思想内容や宗教儀礼については、については精緻な調査が必要である。さらに、天道神社や天道信仰のルーツは大陸の思想であることは明らかであるが、「琉球を経由した大陸」というアプローチはいまだ十分ではない。

以上の検討を踏まえて、天道信仰について明らかにするためには、「琉球経由の大陸思想」として、道教や修験道・陰陽道を含めた宗教複合の諸相を研究する必要があるということが見えてきたのである。

2. 研究の目的

本研究では、東アジアおよび琉球ならびに日本各地で「天道(天)」をめぐるフィールド調査および史資料の調査を行い、陰陽思想・道教を含む「宗教複合」思想を浮き彫りにすること、とりわけ「琉球経由の大陸とのつながり」を視野に入れて精査することにより、前回の研究では抜け落ちていた「天道」思想の現代につながる意義を見出すことを目的とする。

我が国の「天道」を、東アジア全体に共有される「天」をめぐる宗教概念との関係の中で見ていくことで、「東アジアの中の日本」というグローバルな位置づけを見出し、宗教思想に関する日本の独自性をあらためて浮き彫りにすることをめざす。

3. 研究の方法

本研究では、東アジアおよび日本各地で重要な信仰として広まっている「天道(天)」の意味を探るために、フィールド調査および史資料の調査を行う。

2018年度は国内で、天道信仰の普及地域として知られる北関東で、神道・仏教・道教・陰陽道を視野に入れて、資料収集および調査に従事。また、国外調査については、韓国の思想および、現地情報に明るい、ネイティブの研究協力者の助力を乞い、韓国の土着信仰・道教・仏教・陰陽道に関する基本資料の収集を実施するとともに、天・天道概念に関する基本資料をソウル大学・高麗大学等大学図書館で可能な限り収集を進める。2019年度は、国内では中部から関西における天道信仰の、道教・陰陽道とのかかわりを郷土資料や文献資料調査を実施。韓国の天道信仰について現地調査を行う。2020年度は、琉球(沖縄)の現地調査および史資料の収集及び読解に従事。そして最終年度の2021年度には、総合的に研究成果を集大成する。

4. 研究成果

国内調査では、天道念仏および天道祭祀の伝承の残る、北関東（千葉県・茨城県・群馬県・栃木県・東京都）及び中部地区（愛知県・静岡県）において資料収集に努めたが、当該地域の祭祀における「天道」が、道教・陰陽道を中心とする、東アジア諸宗教の複合信仰概念であることが、祭祀研究の実際によって裏付けられることが明らかとなった。

国外調査では、韓国の思想および、現地情報に明るい、ネイティブの研究協力者の助力を乞い、韓国の土着信仰・道教・仏教・陰陽道に関する基本資料の収集を実施するとともに、天・天道概念に関する基本資料をソウル大学・高麗大学等大学図書館で可能な限り収集を進め、史資料を分析した結果、道教および陰陽思想、民間信仰のなかに、「天」ないし日本の「天道」につながる思想が散在していることを跡付けることができた。

ただ、誠に残念ながら、2020年度～2021年度に予定されていた沖縄のフィールド調査が、新型コロナウイルス感染拡大防止をめぐる状況の中、断念せざるを得なかった。

そうした中で、手を尽くして収集した沖縄及び九州地区の郷土資料の読解に尽力した結果、琉球諸島を経て大陸から流伝した「天・天道」観念は、道教系の天道信仰をベースとする複合宗教思想であること。そこで重要な役割を果たしているのは、大陸から伝来した道教書『太上感應編』であること。『太上感應編』の道教系天道思想は、吉田神道とも密接なつながりがあること。以上3点が浮かび上がってきた。この成果は予期せぬ形で得られた重要な成果である。

今後の課題として、上記の新知見並びに、天道信仰と修験道・道教の関係の考察を深めていく必要があると考えている。また、吉田神道と大陸諸思想との関連につき考察を深めていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 加藤みち子	4. 巻 36
2. 論文標題 書評『人類の共生と平和の尊びを求めて』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東方	6. 最初と最後の頁 287,300
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤みち子	4. 巻 36
2. 論文標題 江戸時代日本における天道信仰－陰陽道の影響を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武蔵野大学仏教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1,19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 加藤みち子
2. 発表標題 世法則仏法－「これからの仏教」と「これまでの仏教」
3. 学会等名 在家仏教協会WEB講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤みち子
2. 発表標題 「廓庵和尚十牛図」の日本的展開（続）
3. 学会等名 武蔵野大学仏教文化研究所第4回研究例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤みち子
2. 発表標題 熊野信仰のマンダラを読む 熊野古道の信仰
3. 学会等名 島根県松江市・NPO法人東洋思想文化研究所中村元記念館（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤みち子
2. 発表標題 あらゆる仕事は「道」に通ず 鈴木正三和尚に学ぶ
3. 学会等名 在家仏教協会「宗教と労働」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤みち子
2. 発表標題 神道入門－神道行事の背後にあるもの
3. 学会等名 朝日カルチャー新宿（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------